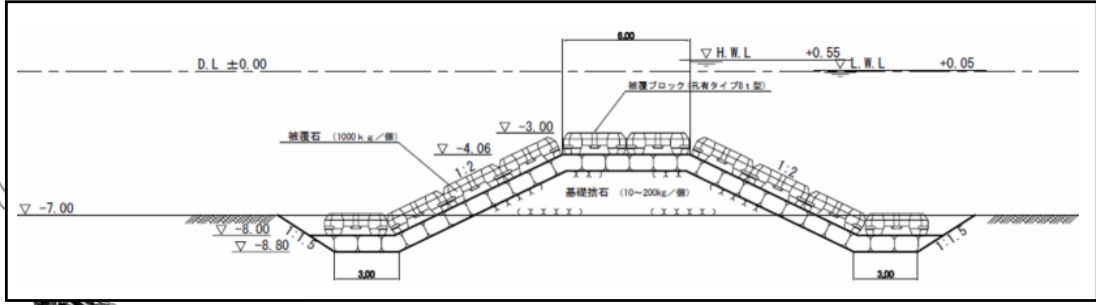


## 投資事業評価調書（新規）

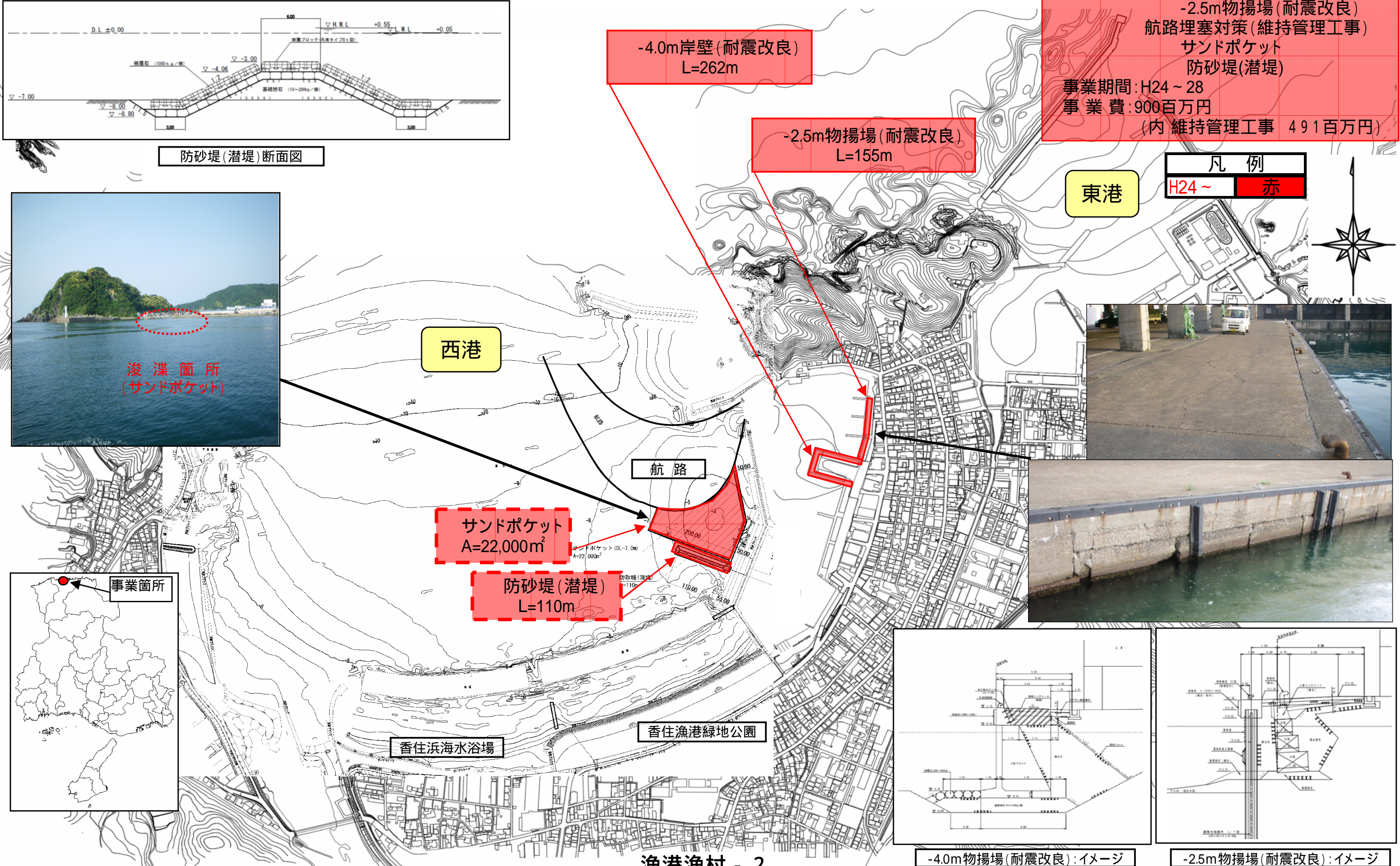
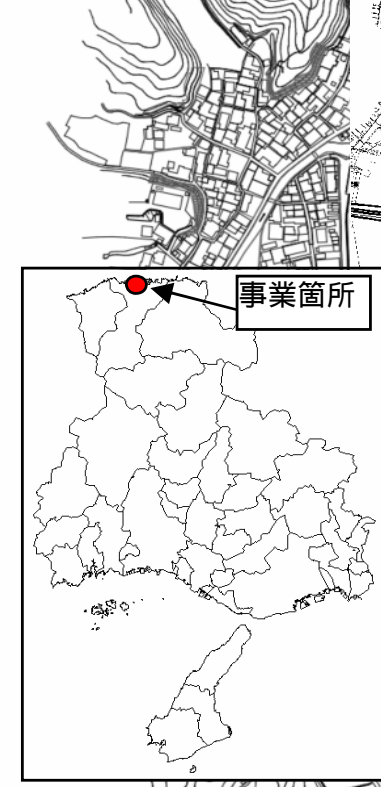
部課室名	農政環境部 農林水産局 漁港課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	漁港課長 坪内稚和 (課長補佐兼計画係長 赤首部 俊則)	内線	4172 (4177)
事業種目	漁港漁村整備	事業名	事業区間	総事業費	9億円 (内維持管理工事5億円)
		水産流通基盤整備事業	香住漁港	内用地補償費	億円
所在地			事業採択 予定年度	着手予定 年 度	完成予定 年 度
美方郡香美町香住区			平成24年度	平成24年度	平成28年度
事業目的			事業内容		
但馬地域の陸揚流通拠点漁港である香住漁港において産地市場周辺の老朽化した係留施設の改良を行い、耐震性向上による安全確保、水産物の安定供給を図る。(あわせて主要航路の維持管理として埋塞対策を行い、航路の通行性確保を図る。)			〔係留施設改良〕 -4.0m岸壁(耐震改良) L=262m -2.5m物揚場(耐震改良) L=155m 〔航路埋塞対策〕 サンドポケット(DL-7m) A=22,000m <sup>2</sup> 防砂堤(潜堤) L=110m 負担割合;係留施設改良:国:50%,県:45%,町:5% (航路埋塞対策:国:50%,県:50%) 【事業主体:兵庫県】		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	産地市場周辺の係留施設については、古いもので築造後約60年(昭和26年築造)が経過し、老朽化が著しく陸揚作業効率が悪くなっている。また必要な耐震性が確保されていないため、施設の改良が必要である。 (沿岸漂砂による土砂堆積傾向が著しい当漁港において、航行安全および安定した航行確保を図り円滑な漁業活動を支援するためには、未然に航路の埋塞対策を行うことが必要である。)				
(2)有効性・効率性	老朽化している係留施設は、産地市場の中心に位置し最も利用頻度の高い施設である。当該施設の耐震改良とともに、老朽化対策を行うことは、漁業者の安全確保、水産物の安定供給の面から有効かつ効果的である。 (航路の埋塞防止としては、50年間の総事業費で比較すると、毎年維持浚渫するより、「サンドポケット+防砂堤」の初期投資を図る方が経済性に優れ効果的である。 B/C合計 = 1.9)				
(3)環境適合性	係留施設改良については、既存施設を極力残存させたうえでの必要最小限の改良となっており、水産環境や景観等に特に影響はない。 (「サンドポケット+防砂堤」の防砂堤は、天端を海面から突出しない構造とし藻場機能付きブロックを使用するなど景観や環境に配慮した計画となっている。)				
(4)優先性	当漁港は、但馬地域で最も陸揚量が多く、他港からの陸揚げもことから陸揚流通拠点漁港として、重要な役割を担っており、利用頻度の高い係留施設のエプロンにひび割れや変状がみられ、早急に対策を講じる必要があり、地元漁協からの要望も強く、優先性は高い。 (陸揚流通拠点漁港である当漁港の主要航路の航行安全、安定した航行確保を図ることは、優先性が高い。)				

# 香住漁港 水産流通基盤整備事業 計画平面図

【水産流通基盤整備事業】  
 事業内容: 係留施設改良  
 -4.0m岸壁(耐震改良)  
 -2.5m物揚場(耐震改良)  
 航路埋塞対策(維持管理工事)  
 サンドポケット  
 防砂堤(潜堤)  
 事業期間: H24~28  
 事業費: 900百万円  
 (内 維持管理工事 491百万円)



防砂堤(潜堤)断面図



凡例  
 H24~ 赤

東港

西港

-4.0m岸壁(耐震改良)  
L=262m

-2.5m物揚場(耐震改良)  
L=155m

サンドポケット  
A=22,000m<sup>2</sup>

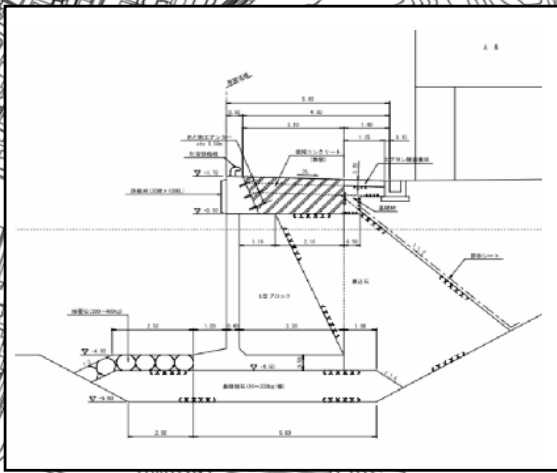
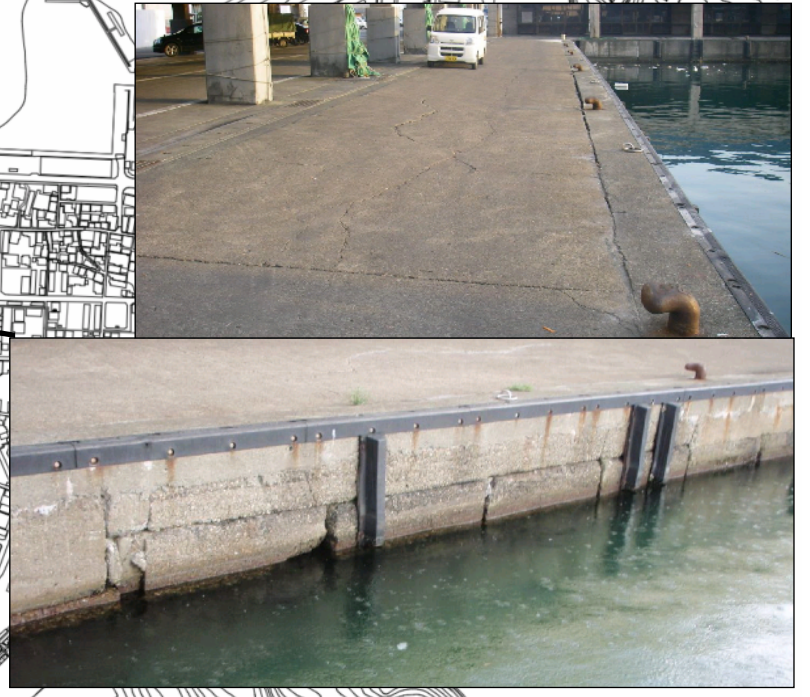
防砂堤(潜堤)  
L=110m

航路

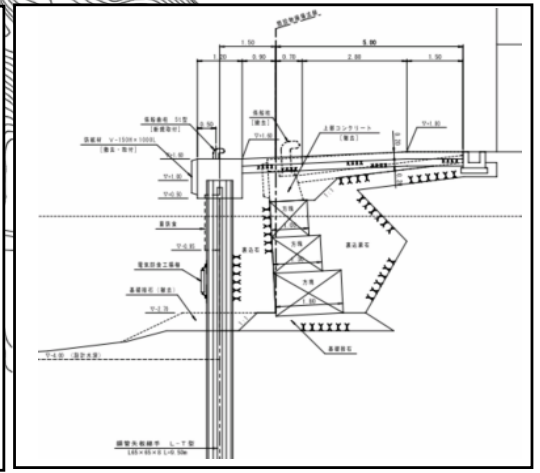
香住浜海水浴場

香住漁港緑地公園

漁港漁村 - 2



-4.0m物揚場(耐震改良):イメージ



-2.5m物揚場(耐震改良):イメージ

工程表（香住漁港）

	H24	H25	H26	H27	H28
調査・設計	■■■■				
-4.0m岸壁（耐震改良）				■■■■	
-2.5m物揚場（耐震改良）		■■■■			
（サドポケット + 防砂堤）	■■■■				

B/C根拠説明資料

便益（B）の項目

事業	B（便益）	算出方法
係留施設改良	復旧費用削減便益 震災時の係留施設の損壊に伴う復旧のための支出を回避できることによる便益	整備無しの復旧費用 × 耐震化した係留施設が機能を発揮する確率  復旧費用：施設規模 × 撤去復旧単価原単位
	漁業生産損失削減便益 震災時の係留施設の損壊に伴う漁業生産損失を回避できることによる便益	整備無しの漁業生産損失費用（＝復旧期間中の陸揚金額） × 耐震化した係留施設が機能を発揮する確率
	陸揚作業効率化便益 陸揚作業人数が減少することによる便益	整備無しの陸揚作業人件費 - 整備有りの陸揚作業人件費 人件費：漁船隻数 × 陸揚回数 × 作業時間 × 作業人数 × 労務単価原単位

（航路埋塞対策）	（漁獲機会増加便益 出漁回数が増加することによる便益）	（整備有りの出漁日数 - 整備無しの出漁日数） × 日当たり陸揚金額
----------	--------------------------------	---------------------------------------

費用便益比（B/C）算出根拠

事業	事業名	B（便益）		C（費用）			B/C	
		便益額 （百万円）	代表的な効果	総費用 （百万円）	事業費 （百万円）	維持管理費 （百万円）		
係留施設改良	香住漁港 水産流通 基盤整備 事業	復旧費用削減便益	214	復旧費用削減額 1,139百万円	396	360	36	2.9
		漁業生産損失削減便益	636	漁業生産損失削減額 3,356百万円				
		陸揚作業効率化便益	300	作業人数削減 10人 5人				
		計	1,150					

（航路埋塞対策）	（漁獲機会増加便益）	（492）	（出漁日数 95日 100日）	（475）	（452）	（23）	（1.0）
----------	------------	-------	--------------------	-------	-------	------	-------

合計	1,642		871	812	59	1.9
----	-------	--	-----	-----	----	-----